

平成28年度 大阪府立芦間高等学校 第3回 学校協議会

日時 平成29年3月22日(水) 午後2時00分～午後4時50分
場所 本校2階 図書室

構成員

<協議会委員>

笹山 幸子	元府立高等学校長
竹本 剛	P T A会長
藤田 俊和	後援会会長
松本 紀容子	守口市立八雲中学校 校長
宮坂 政宏	週刊教育P R O 編集委員
山崎 裕也	スクールI E (学習塾) 京阪エリアマネージャー

<事務局>

東崎 浩	教頭
久森 雅代	事務長
甲斐 徹	首席 兼 情報部長
辻 真人	首席 兼 総務文化部長
塩崎 靖子	指導教諭 兼 教務主任
斉藤 衛	生徒指導主事
阿野 高明	進路指導主事
槇田 純子	保健主事
平尾 映子	第1学年主任
岸本千都子	第2学年主任
飯尾 勝紀	第3学年主任
水嶋 育美 (萩原英治)	支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長 (校長)



配付資料	○資料01	平成28年度第2回学校協議会議事録
	○資料02	平成28年度学校経営計画及び学校評価
	○資料03	平成28年度学校教育自己診断集計結果
	○資料04	平成28年度授業アンケート集計結果
	○資料05	平成28年度「勉強」に関するアンケート集計結果
	○資料06	平成29年度学校経営計画
	○資料07	平成29年度大学入試合格速報

内 容

(1) 校長挨拶

- (2) 報告 [1] 平成28年度学校経営計画及び学校評価について
[2] 平成29年度学校経営計画について

○平成28年度学校経営計画とその進捗状況について

[資料02を中心に説明し、適宜、資料03・04・05・07のデータを交えて補足説明を行った。]

- ・生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上
- ・夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実
- ・安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底
- ・広報活動の充実

○平成29年度学校経営計画について

[資料06を中心に説明を行った。]

- ・生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上
- ・夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実
- ・安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底
- ・広報活動の充実

- (3) 協議 [1] 平成28年度学校経営計画及び学校評価について
[2] 平成29年度学校経営計画について

[1] 平成28年度学校経営計画及び学校評価について

1. 「生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上」について

- (委員) 学校教育自己診断については、設問そのものが抽象的ではっきりしないところがある。また、何に満足していて何に不満なのかが分からないところがある。数値だけでなく、数値の裏側にあるものを考察しながら、教育活動を行ってもらいたい。気になるのは、家庭学習に関する項目が他校に比べて低いことである。学習意欲も低いように感じられる。
- (委員) 学校教育自己診断については、評価としてではなく、これから学校をよくするための参考と考えた方がよい。分析については、すべては無理なので、いくつか絞って行った方がよい。教員が「よく分からない」と答えているのはなぜか。また、学年の経年変化を見てもいいのではないか。
- (事務局) 生徒・保護者のアンケート結果が出る前に教員も回答しているので、そのような結果になったのかもしれない。順番として、生徒・保護者のアンケートを取って、その結果を見て、教員のアンケートを実施していれば、そういうことは起こらないかもしれない。しかし、一般的には、他の要素に影響されないようにアンケートは実施すべきであると考えている。
- (事務局) 本校の自己診断の設問項目は、府教庁が示す「標準形」をもとに、本校の実態に合うように、また、「標準形」の文言の抽象的な部分について可能限り具体性を持たせられるように改良してきたものである。府教庁が示す「標準形」から乖離しないように、また、他校の自己診断と比べてあまり掛け離れた内容のものにならないように、ということに留意している。
- (委員) 学力を分析するのに、民間の教育産業が実施している学力生活実態調査は使っているのか。その資料を学校協議会に提出している学校もある。他校との比較や全国との比較ができて、該当校の生徒の特徴を的確に捉えることができる。
- (委員) 学びが画一的になっては意味がないので、アクティブ・ラーニングであっても画一的にならないように、個々の生徒にとって意味のある学習にすることが肝要である。
- (委員) 家庭学習を身に付けさせることはなかなか難しい。家庭学習の先にあるものは何か、ということを生徒に理解させないといけない。生徒が学習時間を記録する取り組みとしては、どのようなことを行っているのか。
- (事務局) 他府県の高校を視察して情報はかなり集めてきているが、本校の実践に移すことは未だできていない、今年度実施した『『勉強』に関するアンケート』を一つのきっかけとして、来年度、生徒が学習時間を記録する取り組みに繋げていきたいと考えている。
- (委員) 課題などは、生徒は、みんな、きちんとやってきているのか。
- (事務局) 数学については、1年生には、統一の「課題ノート」を作らせている。課題を与えれば、ほとんどの生徒はきちんとやってくる。
- (事務局) 英語については、課題というと、予習と授業後の復習ということになるが、毎回、課題を出して、その都度、やってきているかどうかを点検している。

2. 「夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実」について

- (委員) 総合学科ということもあり、「ジョブカバリー」や「総学論文4000字」の取り組みはとてもよい。キャリア教育の取り組みは効果的であり、単に出口を見つけるだけでなく、大学へ進んだ後、社会でどのように自立しているか、芦間高校で学んだことがどのように活かされているか、ということについて、卒業生に話をしてもらうことを実行してみたらいいのではないか。
- (事務局) 以前は、「先輩に聞く」という授業があり、ジョブカバリー（当時の取り組みの名称は「ジョブクエスト」）の練習として行ったこともあった。

- (委員) 海外修学旅行の満足度は非常に高い。高校時代に海外へ行くというのは刺激になっていいと思う。
- (委員) 進路指導の満足度は65%前後であるが、家庭との連携の部分で、保護者の期待はどこにあるのだろうか。
- (事務局) 決して、保護者との連携が取れていないわけではないと思う。
- (委員) 自由記述欄があれば、把握できるのではないかな。
- (委員) アルバイトはどうなっているか。アルバイトをしている生徒は、勉学に力を注ぐことができないのではないだろうか。
- (事務局) 本校では、基本的には、アルバイトは禁止だが、許可制というシステムを採っている。進学資金の確保のために、保護者が許可を申請する場合もある。
- (委員) 保護者への進学指導という点についてであるが、塾での感覚では、子どもが主体的に考えて「子どもが行きたいところへ行かせる」という保護者が多い。子どもが満足していれば、それに伴って保護者の満足度も上がるのではないかなと思う。難関大学への合格者を見ると、まずまずの成果が出ているので、現在行っている指導を続けて頑張ってもらいたい。
- (委員) 最近、府立高校から大学に入学することが難しくなっているのではないかなと思われる。私学が、無償化になって、大学受験に特化して生徒を集めている。そのことを考えると、芦間高校は検討しているのではないかなと思われる。
- (事務局) ある程度満足感の得られる私立大学に推薦で合格して手続きをすると、一般入試で難関私立大学には挑戦しなくなるという傾向がある。また、大学の方も、合格者数を絞る傾向にあるので、全体的には難しくなっている。
- (事務局) ここでご意見をいただいている以外の項目も含め、今年度の自己診断においては、総じて、この4年間の中では比較的よい結果が出ていると言える。経年変化を見ていくと、課題も多いのは事実であるが、この間の取組みがジワッと成果を出してきていると感じている。

3. 「安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを持った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底」について

- (委員) いじめが1件あったということであるが、どのような内容のものであったのか。
- (事務局) [略]
- (委員) 現在は見守り中ということであるか、伝えることができる相手があってよかったと思う。教員がカウンセリングマインドを持っているからだと思う。
- (委員) 他校のことであるが、遅刻が減って、進学率が上がった学校があった。遅刻指導については、より一層、頑張ってもらいたいと思う。遅刻と学習とは、連動するところがある。1年生の5分前に教室へ行く生徒の姿勢が習慣化していると思う。
- (委員) いじめについては、人権に関する教育が必要だと思う。自分では相手を傷つけていると思っていないことが、相手を傷つけてしまっていることがある。人権教育と捉えて予防的なものを行うことが肝要である。本校では、生徒が教員に相談しやすい環境あるのがよい。関連する項目の数値がやや低いように思われるが、他校よりはよい結果なので、引き続き、教育相談機能の充実に向けて頑張ってもらいたい。
- (委員) 学力を高めるにはどうすればよいか、ということについては、認知的な学力に加えて、根気強く何かをやるといった非認知的な能力が高くなれば、学力にも影響を与えることになる。「遅刻をしないで毎日来る」等、継続的に努力をするということも非認知的な能力である。総合学科では、そのようなことに取り組みやすいのではないかなと思われる。社会で生きていくには、そのような能力が必要である。



(委員) テレビで紹介された北九州の小学校の先生の「ことばシャワーの奇跡」では、小学生が選んだ「あふれさせたい言葉」と「無くしたい言葉」が紹介されていた。言葉で学校が変わるのは、小学校でも高校でも同じだと思う。高校でも、そのような取り組みをしてはみてはどうだろうか。

4. 「広報活動の充実」について

(委員) いろいろなことを実践していると思うので、教員の頑張りは評価できる。

(委員) 教員の頑張りをもっと中学生の保護者に見せてもいいのではないか。教員の行っていることをアピールすると、中学校や塾の先生は評価してくれると思う。

[2] 平成29年度学校経営計画について

(委員) 前期入試の頃は、『ダメもと』で受けてみたら・・・。」という話がしやすかった。守口市内の生徒・保護者は芦間高校のことをよく知っているが、寝屋川あたりでは、芦間高校のことを知らない保護者も多い。まだまだ、広報活動が浸透していないのかもしれない。特に、総合学科の認知度という点で。

(事務局) 生徒のアンケートをもとに、校長・教頭・首席で、中学校や塾を回って広報活動を展開している。寝屋川市内においては、少しずつ総合学科が認知されてきたため、受験者数が増えた。次の課題は、枚方地区だと思っている。枚方地区では、まだ、一部にしか認知されていないと思っている。来年度も、例年同様、4月当初に、新入生に対して「併願校や通っていた塾」等に関するアンケートを取り、そのデータをもとにアピールに回る予定である。

(委員) こういう学校だということを理解してもらうには時間がかかる。中学生の保護者は、高校の情報を得にくい。高校に関する情報を中3生だけでなく中2生にまで届ける必要がある。この学校の学びを理解してもらうための広報活動を根気強く行う必要がある。

(委員) ある高校では、入学すると「自分はできそう」と思わせる雰囲気がある。雰囲気を作ることは大切である。

(委員) 前回の協議会でも出ていたが、小グループによる研究授業は効果がありそうなので、やってみてはどうかと思う。

(4) 校長挨拶

○この1年間のお礼

○来年度(H29年度)の委員の委嘱

